

AAFC分科会「JAZZを聴こう」第27回
【キース・ジャレット特集】

キース・ジャレット：1945年生 幼少期はクラシックの教育を受けていたが、高校期よりジャズに傾倒、バークリー音楽大学を経てジャズ・ピアニストとしての活動を開始した。1965年にアート・ブレイキーのジャズ・メッセンジャーにジョン・ヒックスの後任として加入、1970年マイルス・デイビスのバンドに参加、1972年よりプログラムの一切無い完全即興によるピアノ・ソロ・コンサート活動を始め、ブレーメン、ローザンヌそして「ケルンコンサート」はLP、CD共に記録的な大ヒットとなった。ジャズミュージシャンとして、トリオ、カルテット等の活動に加えクラシック分野でもモーツァルト・ピアノ協奏曲、バッハやヘンデルではチェンバロやオルガン演奏にも才能を発揮した。



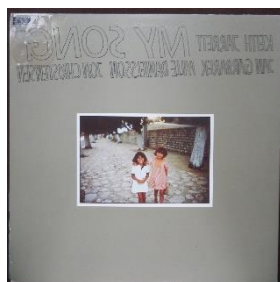
『The Köln Concert』より Part 1 26' 15"

1975年1月24日 ケルン・オペラハウスでのライブ録音
使用されたピアノは、ベーゼンドルファーのインペリアル・コンサート・グランド・ピアノの予定が別の小ぶりのグランド・ピアノで、調律は出来たが耳障りな高音と響きの悪い低音が残り、ペダルもうまく動かないという状態であった。しかし結果は高い評価を得、レコードは400万枚超の大ヒットとなった。



『Somewhere Before』より My Back Pages 5' 17"

ボブ・ディランが作詞・作曲・演奏・歌唱し、アルバム『アナザー・サイド・オブ・ボブ・ディラン』に収録された楽曲。
1968年8月 ロサンゼルス・シェリーズ・マンホールのライブ録音、「キース・ジャレット・トリオ」名義で発表したアルバム
P：キース・ジャレット B：チャーリー・ヘイドン
Ds：ポール・モチアン



『My Song』より My Song 6' 10"

全曲キース・ジャレットの作曲によるアルバム
演奏は、キース以外の3名はヨーロッパ勢で、いわゆる「ヨーロッパアン・カルテット」
1977年11月 オスロのスタジオ録音
P：キース・ジャレット Ts：ヤン・ガルバレク
Ds：ヨン・クリステンセン B：パレ・ダニエルソン



『Still Live』より Autumn Leaves 9' 48"
シャンソンの名曲「枯れ葉」

1986年ミュンヘン、フィルハーモニック・ホールのライブ演奏は、1983年以降「スタンダーズ・トリオ」として長年ライブの他、多くのアルバムを発表しているメンバー。
P：キース・ジャレット Ds：ジャック・ディジョネット
B：ゲーリー・ピーコック

※上記は全てLPレコードにて再生